

実践事例

動画再生を用いて、表情に注目して、相手の表情や行動から気持ちを考えることができるようにする。

1 対象児童・生徒の実態

(1) 基本情報

対象児童 障害種別：注意欠陥多動性障害

小集団児童 障害種別：自閉症

障害種別：注意欠陥多動性障害

障害種別：情緒障害

計4人 の小集団指導グループ

(2) 学習上又は生活上の困難

集団行動の際に、指示を覚えていなかったり、衝動的に行動したりすることがある。また、自分と相手の思いや考えがずれることから、友達との意思疎通がうまくいかなかったり、行動と感情のコントロールがうまくできなかったりする。

(3) 困難さの背景・要因

聴覚記憶の弱さがあり、注意・集中の持続も短いために、指示を聞き漏らしたり、衝動の抑制ができなかったりする。また、語彙が少なく、自分の気持ちを的確に言葉にすることが難しい。さらに、気持ちと表情や行動を結び付けて考えられないために相手の表情を読み取れなかったり、気持ちを想像した的確な表現ができなかったりと、客観的な状況把握や場面認識が難しい。そのため、友達との考え方の違いやトラブルの原因が理解できないことがある。

2 対象児童・生徒の指導目標及び指導目標を達成するために使用する教材

(1) 指導目標

- ・周囲の状況に気付いて、落ち着いて行動することができる。
- ・相手の気持ちに気付いて、自分の気持ちや行動を切り替えることができる。
- ・語彙を増やし、音と文字や言葉を結び付けることができる。

(2) 学習指導要領との関連

思いや考えを正確に伝えるための言葉を増やし、相手の言葉や表情などから、相手の意図を推測する。

6 コミュニケーション (2) 言語の受容と表出に関すること

6 コミュニケーション (3) 言語の形成と活用に関すること

自己の理解と自分の行動や感情の調整をする。

2 心理的な安定 (1) 情緒の安定に関すること

3 人間関係の形成 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること

(3) 指導目標を達成するために使用する教材（ICT教材等を含む）

- ・ ICT機器 (iPad) カメラ機能、録音機能
- ・ ICT機器 (スクリーン) 映像投影
- ・ 鏡 (児童用タブレット端末・カメラ機能)
- ・ 表情絵カード・気持ちカード (児童用タブレット端末・教材作成「つくるんです」)

3 ICT教材等を使った指導について

(1) 課題場面

- ・ 気持ちや出来事の整理と自己コントロールや表現に関する場面
- ・ 大切な話を聴く場面

教材をスクリーンで提示することによって表情に着目し、相手の表情や行動から気持ちを読み取ったり、場面ごとの様子を捉えて状況の流れを視覚的に追ったりすることができるようにする。

また、見落としや聞き漏らしがあった場合には、動画画面を繰り返し再生したり、コマ送りしたりして確認できるようにする。

(2) 実践事例

【学習の展開：小集団 コミュニケーション指導 30分】

第一次 「どんな顔？」

1 「嬉しい」「とても嬉しい」「イライラ」「困る」「悲しい」「びっくり」「がっかり」「不思議な気持ち・なんだろう」の表情絵を見せてまゆげや目、口などに注目するようにし、それぞれの絵に合った気持ちの言葉（場面）を話し合う。(10分)

2 自分で鏡を見て、それぞれの表情を練習する。(5分)

3 一人ずつ「プレゼント」をもらい、それを開ける場面を見て、友達の気持ち（①欲しいプレゼントをもらって「嬉しい」 ②苦手な漢字のテストをプレゼントされて「悲しい」 ③箱から物が飛び出し「びっくり」 ④箱の中に何も入っていないで、「悲しい」などの場面を一人ずつ体験できるようにする）を表情絵と気持ちの言葉から選択する。

動画で表情を大きくして、再生したり、コマ送りしたり（一つの場面につき2回程度）して、自分の考えが合っていたかを確認する。(15分)

成果：表情や様子から、気持ちを考えることができることに気づき、適切な気持ちを考えることができた。

第二次 「この顔、どんな気持ち？」

1 表情と気持ちの言葉の復習(5分) それぞれの気持ちの表情を作る練習(5分)

2 寸劇(ともだちにちょっかひを出されて困っているが、笑いながら「やめて。」と伝えている場面 3分程度の動画)を見て、表情や言葉から登場人物の気持ちを考える。

(10分)

- ・ 「やめて。」と言っているが、顔が笑っている。
- ・ 顔は笑っているけれど、心の中は「やめて。」「嫌だよ。」と言っている。
- ・ 笑っているから、相手の友達は嫌がっ



ていることに気付いていない。

どんな顔と言い方で言えば、気持ちが伝わるかを話し合う。(10分)

⇒自分の気持ちは、表情にも出して伝えないと相手に伝わらないこと、そのような経験がなかったかを振り返ることができるようにする。

第三次 「気持ちジェスチャークイズ」

1 一人ずつ、場面(①難しい算数の問題がひらめいた ②苦手なかけこで1位をとった ③忘れ物をして焦った ④けがをして痛いなど)における気持ちを考え、ジェスチャーで適切に表現できるように考える。(5分)

2 場面の寸劇を見せ合い、どのような場面でどんな気持ちになったかを考える。(10分)

成果：表情や行動から友達の気持ちを考えることができた。

動画を見ることで、自分自身の表情や行動にも注目できるようになったため、相手に伝わりやすい表現になっていたかを振り返ることができた。(動画再生一人につき2回ほど)

3 2人1組になり、場面(①野球でホームランを打たれて逆転負けする ②苦手な大縄を連続で跳ぶことができる)における気持ちを話し合い、ジェスチャーで適切に表現できるように考える。(7分)

4 場面の寸劇を見せ、どのような場面でどんな気持ちになったかを発表し合う。(8分)

成果：2人(3人)の様子や表情から、状況を捉え、気持ちを考えることができた。

動画を見て、自分自身の表情や行動だけでなく、ペアの友達の様子にも目を向けることができるようになった。また、友達が読み取った場面について、相手の立場に立って、振り返ることができた。